

こおりやま広域圏 連携子育て支援DX事業



Agenda

- 1 メンバー紹介
- 2 現状・課題
- 3 先進地事例紹介
- 4 提案・効果
- 5 終わりに

1 メンバー紹介 *Profile*

(班長)	荒井	孝介	田村市
(副班長)	鈴木	秀弥	小野町
	官野	優哉	大玉村
	高木	遥香	石川町
	酒井	ほの香	三春町



02 現狀・課題

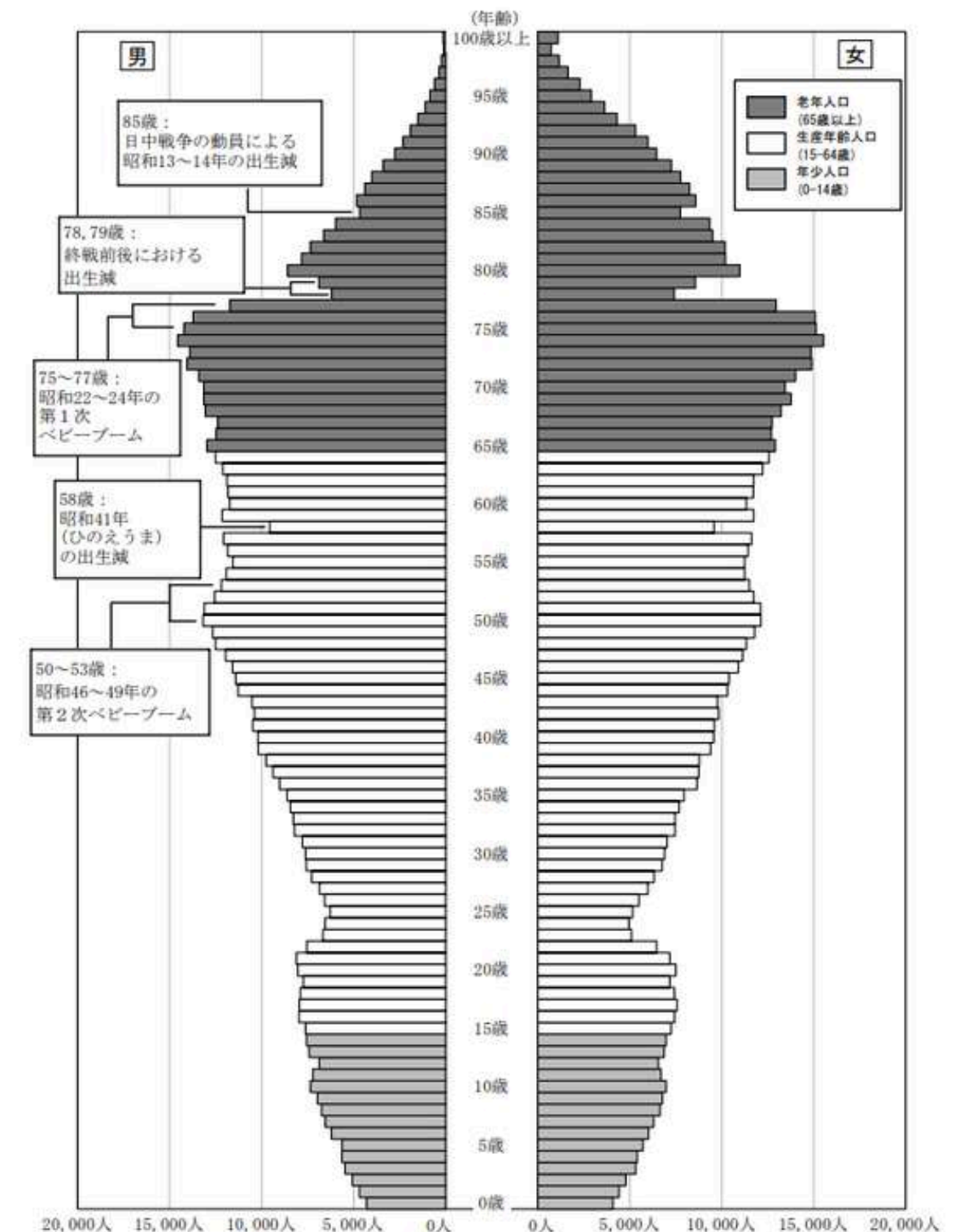
2

広域圏の現状・課題

現状 福島県では少子高齢化が進んでいる。

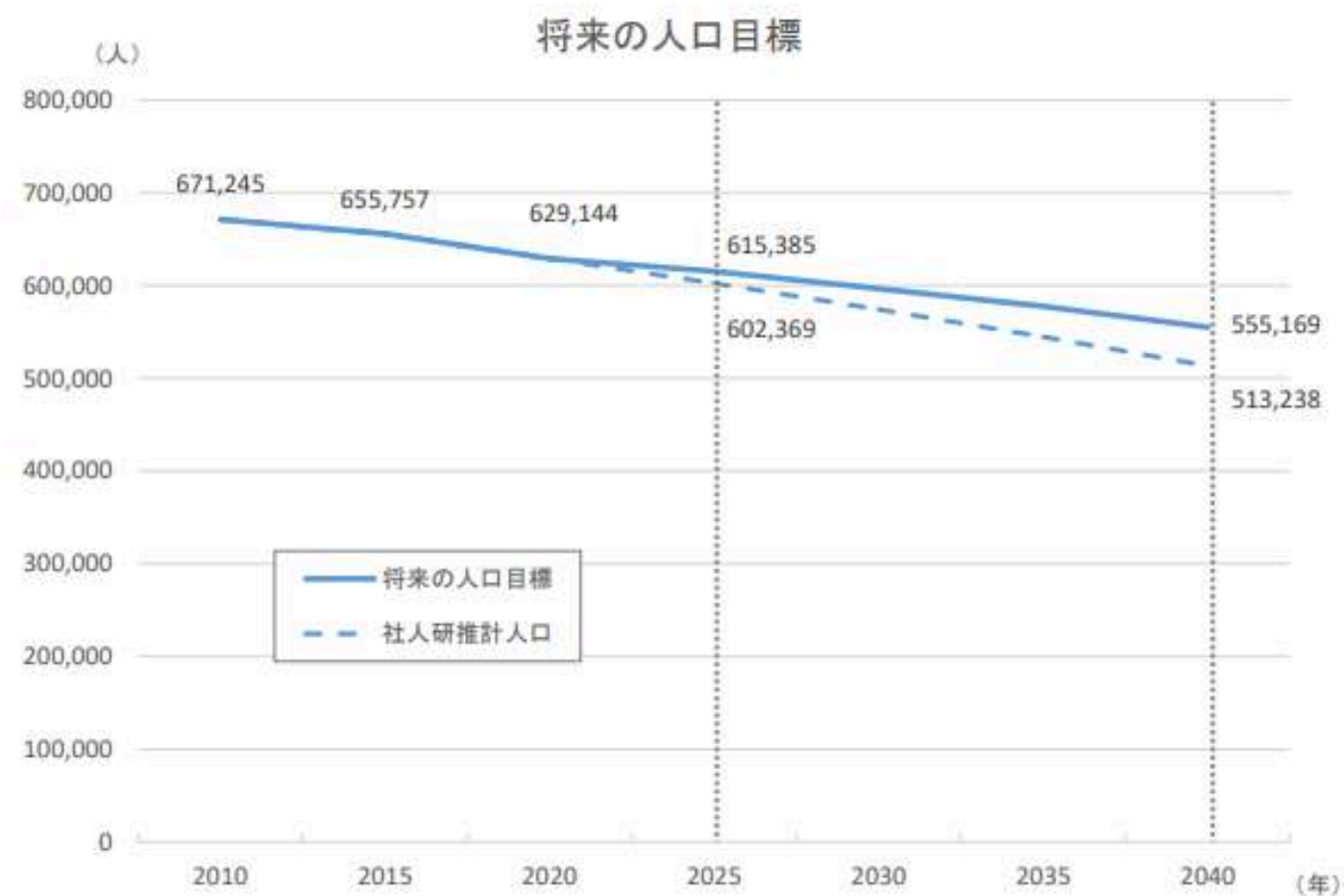
- ・ 20代以下がすぼんでいて、65歳以上が張り出している形
- ・ 「つぼ型」と言われる典型的な「少子高齢化」が進んでいる形

図6 福島県の人ロピラミッド（令和6年10月1日現在）



2 広域圏の現状・課題

現状 こおりやま広域圏でも人口減少は進んでいる。



2010年には約67万人、
2020年には約63万人、
2025年には約60万人になると
予想されています。

	2010年*			将来推計人口			
	2010年*	2015年*	2020年*	2025年	2030年	2035年	2040年
将来の人口目標	671,245	655,757	629,144	615,385	596,626	577,719	555,169
社人研推計人口	671,245	655,757	629,144	602,369	574,319	544,578	513,238

* 国勢調査による実数

こおりやま広域連携中枢都市ビジョン2.1
将来の人口目標

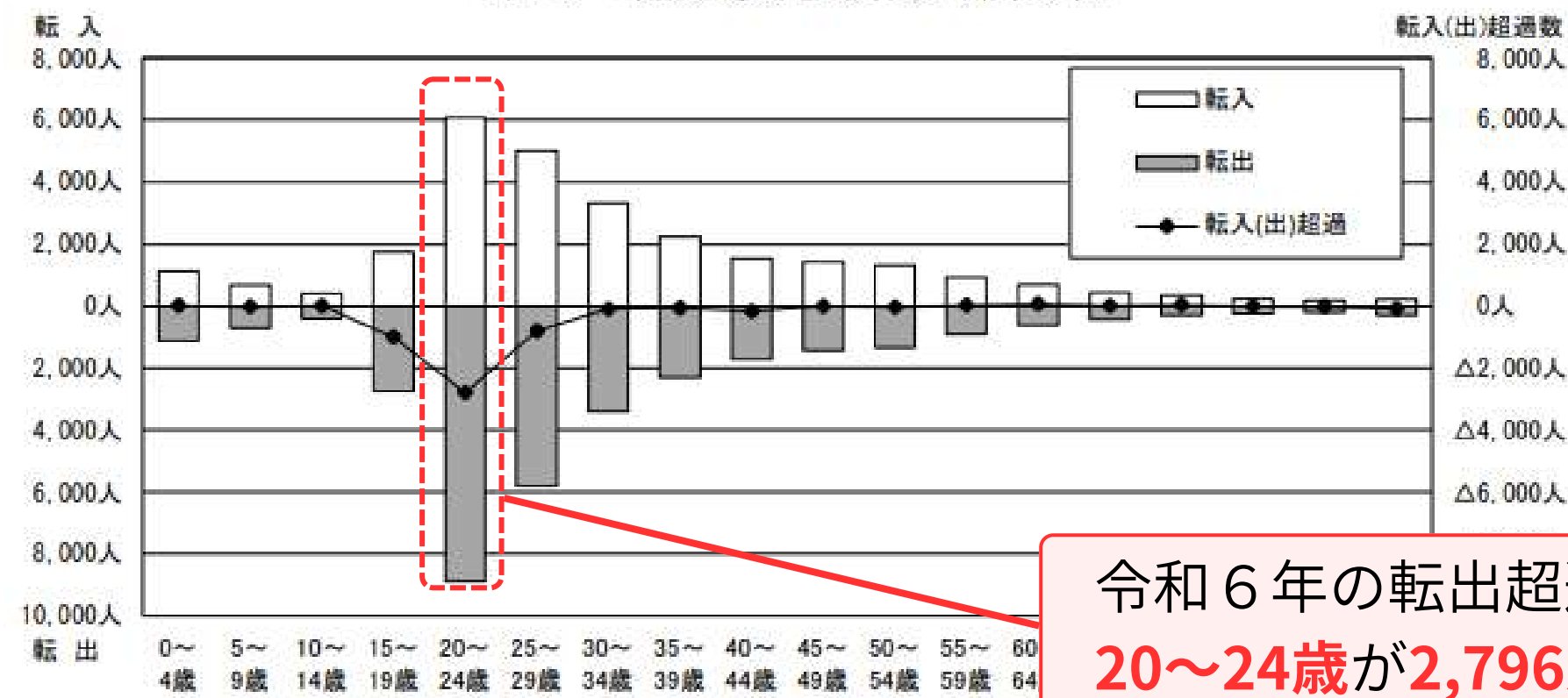
2

広域圏の現状・課題

現状

進学や就職を機に地元から離れる

図16 年齢別県外移動者数（令和6年）



令和6年の転出超過数
20～24歳が2,796人と最多

福島県企画調整部統計課編「福島県の推計人口」から抜粋

一度地元を離れると、
仕事に就いた、
結婚、家族を持った
などの理由からなかなか
帰ってこない！



2

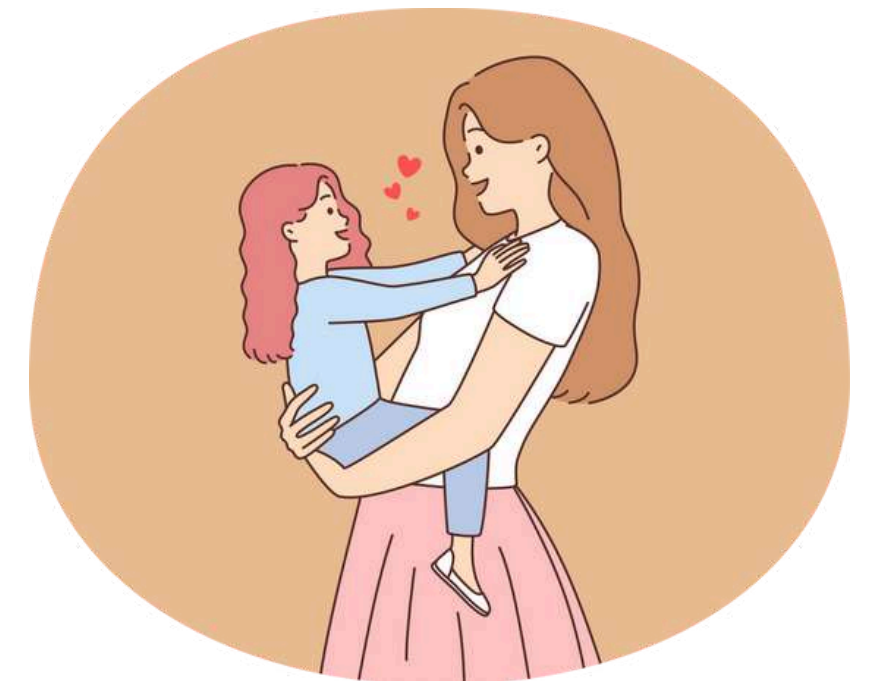
広域圏の現状・課題

人口減少が進む原因は・・・

「転出超過」



「少子高齢化」



2

広域圏の現状・課題

目標

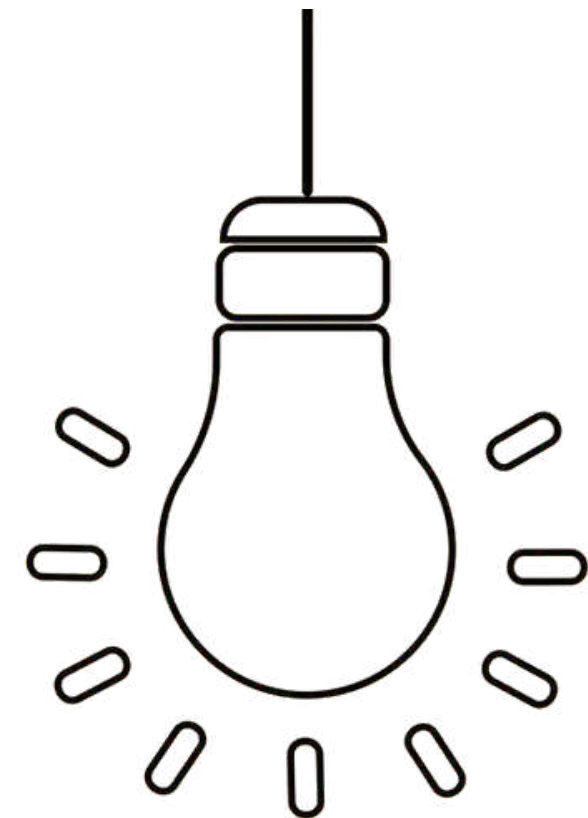
住民が離れにくい、転出者が帰ってきてくれる環境づくり

Q生活する上で支援がほしいタイミングはいつだろう？

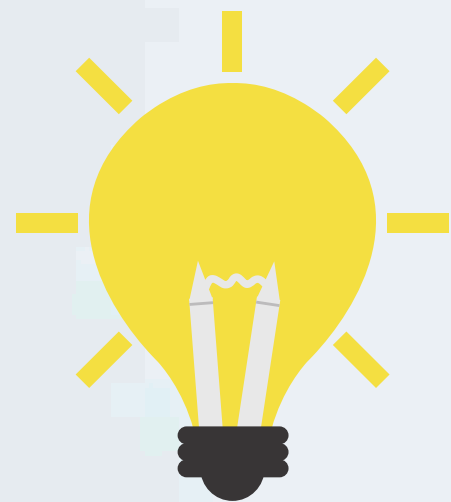


結婚支援？ 子育て支援？ 教育支援？ 就職支援？

ターゲットは、
子育て世帯を中心とした子育て支援



結婚・出産後も住み続けたいと思える場所に！



**子育て世代を中心に、出産から子育ての期間を
支援できれば良いのでは？**

2

広域圏の現状・課題

**Q.各自治体の多くの支援制度や子育て世代向けのイベントがあるのに、
子育て世代に情報が行き渡らない**

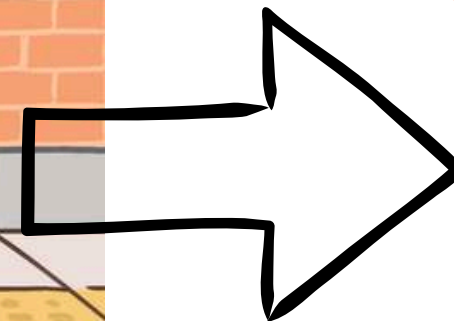
子育て支援の壁

現代の子育て世帯は共働き



- ・申請手続きが面倒、
難しい
- ・子育て情報を調べている
暇がない
- ・役所が開いている時間に
手続きできない

子育て支援の情報がなく、
利用できない

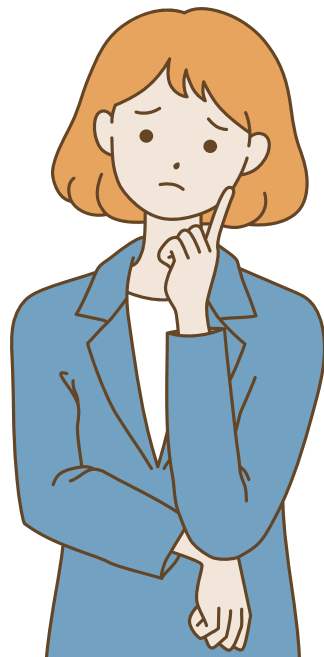


2

広域圏の現状・課題

Q. 広域圏の子育て支援情報が把握しづらい

- ・ 近隣市町村や転入検討先の子育て支援情報は、各自治体のアプリ上では確認できない
- ・ 他自治体の情報は、個別にHP検索等を行う必要がある
- ・ 自ら情報収集をしなければいけないので、時間と手間がかかる

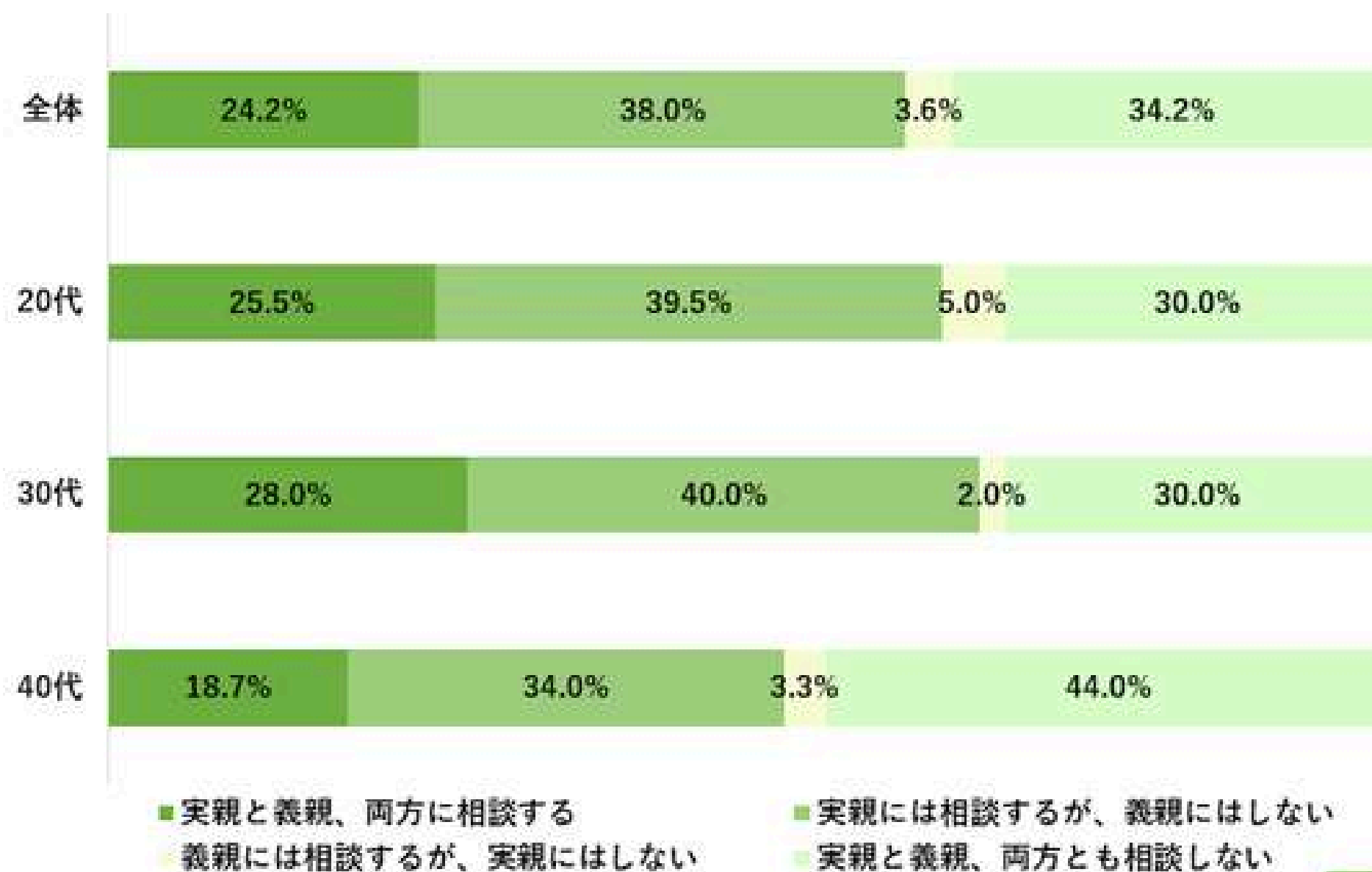


私は〇〇町に住んでいるけれど、□□市の子育てイベントに参加したいな。
どこに情報があるのかな。



2 広域圏の現状・課題

Q.実親や義親に、子育てについて相談しますか？



【複数回答、n=500】

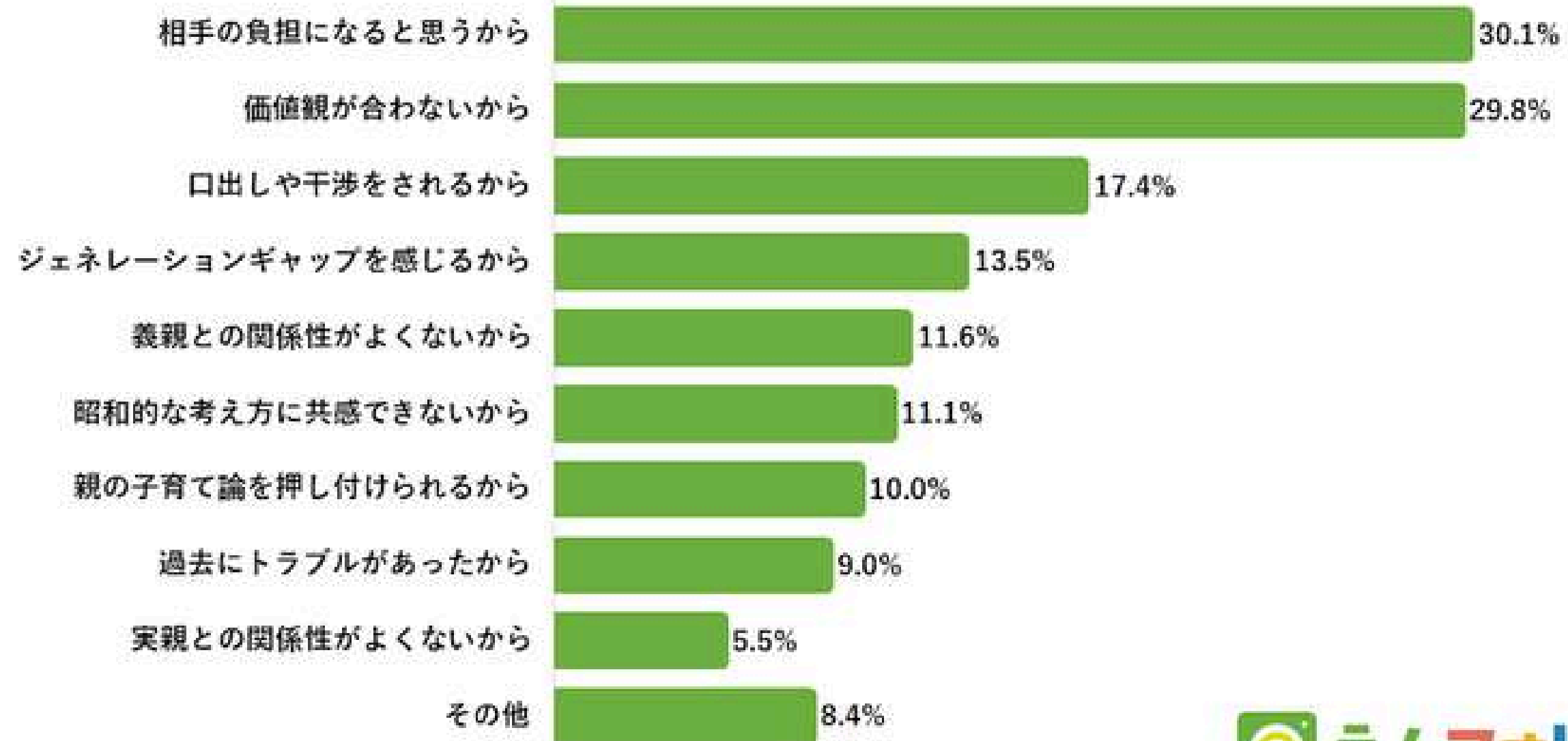


2

広域圏の現状・課題

Q.子育てについて相談しない理由を教えてください

※実親と義親のどちらか、もしくは両方とも相談しないと回答した方に質問※



【複数回答、n=379】



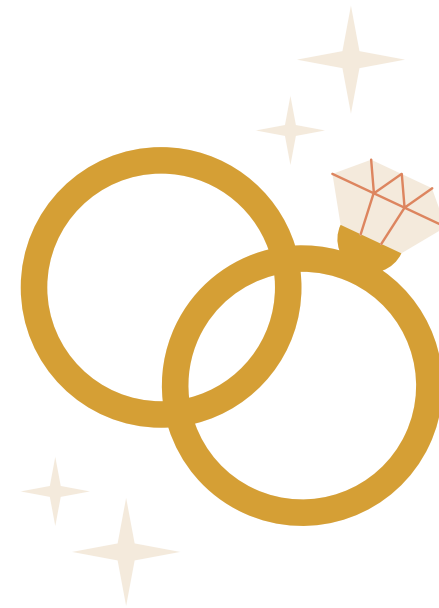
2

広域圏の現状・課題

進学、就職を機に転出した人たちが

地元に戻るタイミングっていつ？

結婚



出産



Q.このタイミングでUターンする理由

- お金のことを考えると、地元で暮らし家族のそばにいたいと思う
- 忙しい毎日の中で、（義）両親のサポートが必要だと感じるため



2

広域圏の現状・課題

Q.Uターンしてきたものの、地元から離れた時間の情報格差があり、顔見知りが少ない

- 地元を離れていた期間が長い子育て世帯ほど、子育て情報や支援制度が分からず、相談相手がいないと感じやすい
- 特にUターン者は地域になじみにくく、孤立感から地域とのつながりが弱まりやすい



実家にもどってきたのはいいけど、
地元から長い間離れていたから、誰
に相談したらいいんだろう？



03 先進地事例紹介

3

先進地事例紹介①

東京都デジタルサービス局

デジタル戦略部デジタル企画調整課



主な取り組み

- ・子育て支援レジストリの構築
- ・レジストリを活用した「プッシュ型子育てサービス」
- ・子育て支援制度の「知りそびれ」「申し込みそびれ」「もらいそびれ」の解消

視察概要

- ・オープンデータを作成
- ・プッシュ型情報発信
- ・垣根を超える連携を目指している
(国・都道府県・市町村・民間)



3

先進地事例紹介②

千代田区役所政策経営部 デジタル政策課



主な取り組み

- ・東京都が行う「プッシュ型子育てサービス」先行プロジェクトに参画
- ・オンライン申請・決済システムの導入
- ・「千代田区ポータルサイト」(チヨダックス)

視察概要

- ・住民へ向けてプッシュ型子育て支援を実践
- ・すべての手続きをオンラインで可能にする取り組み
- ・デジタル化における職員の負担軽減

3 先進地事例紹介③

横浜市役所 こども青少年局 地域子育て支援課



主な取り組み

- ・子育て世代向けアプリ「パマトコ」
- ・24時間対応相談機能の導入
- ・子育て手続きのオンライン化

視察概要

- ・24時間オンライン相談機能の導入（人が24時間子育て世代の不安を相談受付）
- ・専用アプリ（パマトコ）にオンライン申請、病院相談、教育関係、ポイント制度などすべての子育てに関する機能を集約。
- ・子育て支援を0歳から中学3年生まで拡大、教育委員会とも連携。

04 提案・効果

提案内容

提案①

こおりやま広域圏連携情報発信

- ✿こおりやま広域圏内の情報を集約
- ✿アプリで情報をプッシュ通知
- ✿イベント情報がカレンダーで一目で分かる
- ✿子育て支援施設をマップで表示

提案②

24時間オンライン相談受付

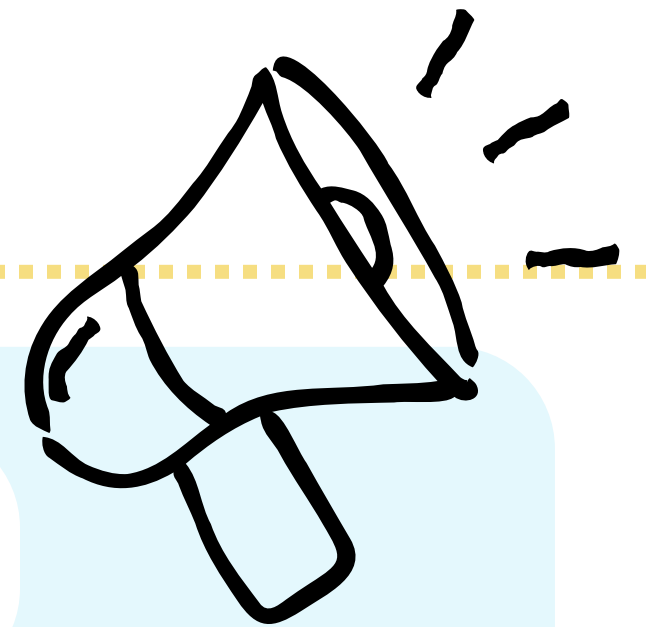
こおりやま広域圏で24時間オンライン相談可能な体制を整えることにより、各市町村単独では確保が難しい専門知識を有する人材を有効に確保し、相談対応の質の均一化と専門性の向上を実現する。

知らなかったを
なくしたい



4

提案内容①

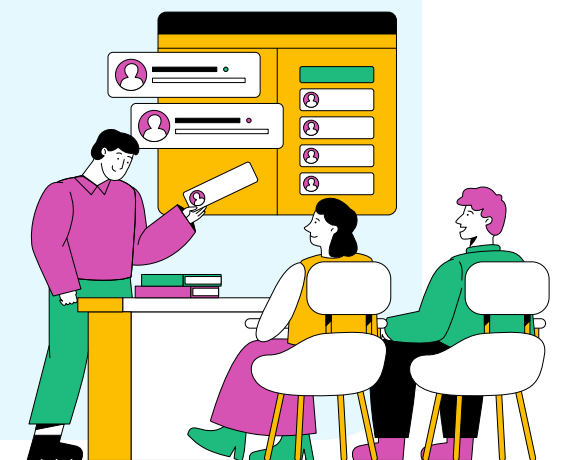


こおりやま広域圏連携情報発信

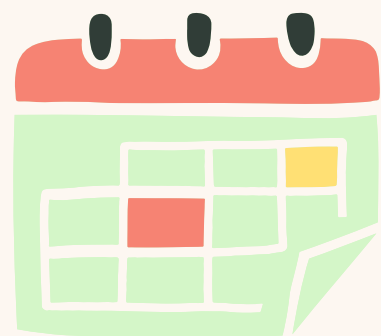
せっかく情報発信をするなら

もっと広域的に！効果的に！

自治体同士の**壁を越えて**こおりやま広域圏内の
子育てに関するイベントや制度の情報をお知らせ！



どんな情報を発信するの？



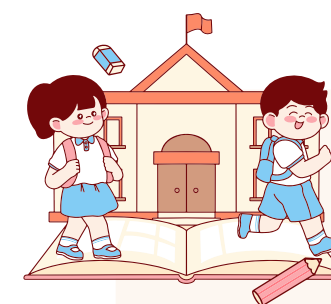
子育て世代向け イベント情報

こおりやま広域圏内のイベント情報をカレンダーに整理します。
より分かりやすく、一目で分かる情報発信を意識して情報の発信の仕方を変え行きます。



子育て支援助成制度

たくさんの支援制度がありますが、皆さんはすべて把握されていますか？
こおりやま広域圏で情報をまとめて、申請ができる方へプッシュ通知で先回り。
オンライン申請可能なものは、申請サイトまで誘導を行います。



子育て関連施設マップ

子育て支援センター、母子保健センター、児童館、保育園、幼稚園、認定こども園、託児所、一時預かり施設、ファミリールーム、こどもクリニック、障がい児通所支援所、子ども食堂。
すべての施設をマップで見える化します。

どうやって発信するの？



ステップ 1

情報の集約

こおりやま広域圏内の各市町村で行う子育て向けのイベントや助成制度、子育て支援施設等の情報を福島県子育てポータルサイト等を活用し、必要な情報のみに情報を絞り込み、誰でも自由に利用・配布でき、DX推進の基盤となる「オープンデータ」として整理します。

ステップ 2

アプリ＆ウェブサイトで情報を発信

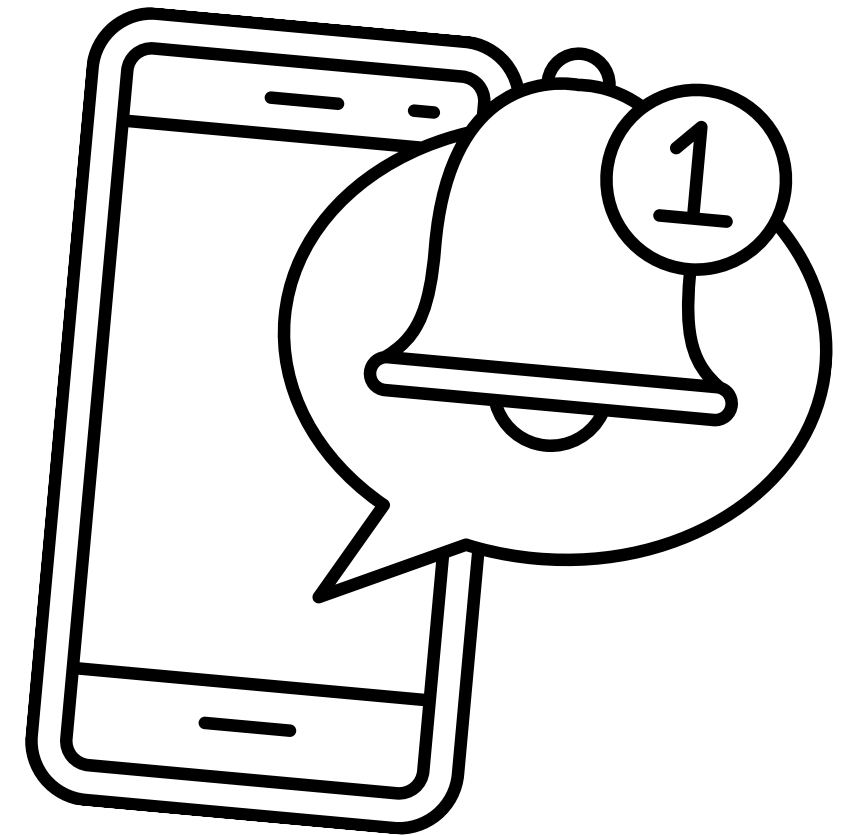
こおりやま広域圏のポータルサイトや各市町村で導入している子育て応援アプリ「母子モ」等でオープンデータ化した子育て情報を取り込みます。職員の事務負担軽減のため、民間事業者に情報発信を委託。

柔軟で迅速な運用に対応でき、子育て世代に最適なタイミングでお知らせを行います

子育て支援制度・イベント情報を**先回り**でお知らせ



プッシュ通知



必要な情報を**必要なタイミングで**届けます！

なぜ提案するのか？

- ① 自治体の制度は数が多いから
- ② 子育て世代は特に忙しいから
(仕事、家事、慣れない子育て…)



▶ 必要な情報にたどり着きにくい状況



お知らせを

確実に届ける 仕組みを整えることが急務

【効果①】 情報を発信する側（行政）

住民対応により多くの
時間を使える

より効果的な
政策の検討ができる

行政自身が成長しながら、
住民にとって優しく頼れる存在になる



誰一人取り残さない行政に近づく

【効果②】

情報を受け取る側（住民）

3つのそびれを解消

(知りそびれ・申し込みそびれ・もらいそびれ)

- ① 必要な情報を迷わず受け取れる
- ② 期限や大切な機会を逃しにくい
- ③ 状況が変わっても情報が継続して届く

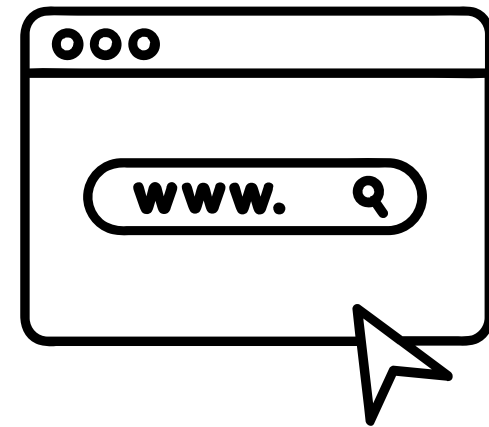
子育てに向き合うための

時間と**気持ち**に余白が生まれる



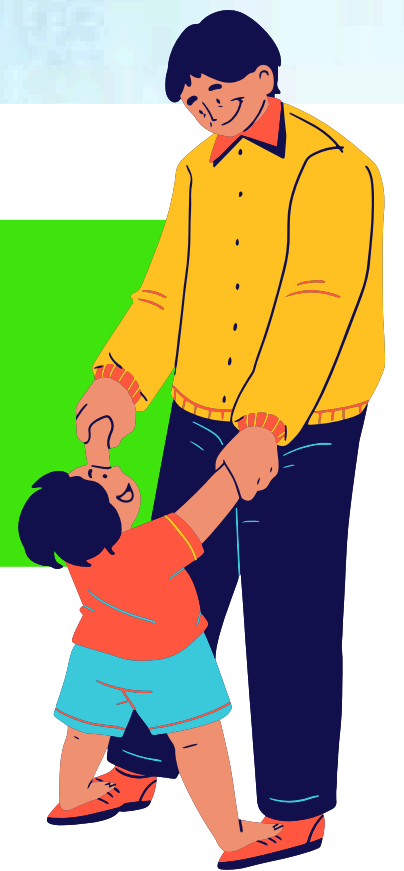
実施例

現状の情報発信

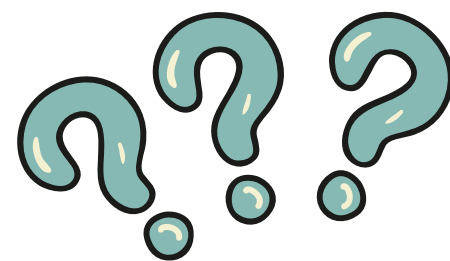


イベントの申し込みは先週まででした。
定員数の上限に達したため募集を締め切りました。
イベントの時間に間に合いませんでした。

せっかくの休日は子どもと遊びに出掛けよう
近くでイベントやっていないかな？

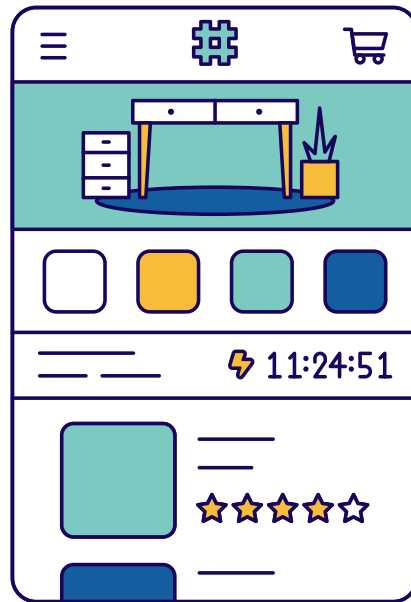


平日は忙しくて調べるのが遅くなってしまった
今週も近くの公園で我慢してもらおう

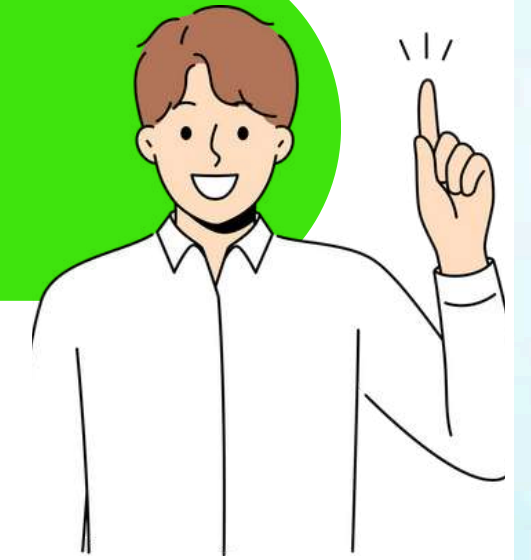


子育ては住んでいる市町村だけで完結するものではありません
実情に応じてより広範囲の情報を「知る」ことができれば
事前に準備や計画が立てられたのかもしれない

実施例 連携情報発信



せっかくの休日は子どもと遊びに出掛けよう
そういえば通知でお知らせが来ていたな



こおりやま広域圏内の子育てイベントは
子育てアプリから通知でお知らせ
申し込みもアプリから簡単にできます

事前にお知らせが来ていて良かった
申し込みも簡単だからもっと子どものために時間を使える



情報発信を通じて子育てに関する「時間」を住民の方にお返しできます
手間を省くことでイベントの参加者や制度の利用の促進にも繋がります。

相談例

現状の情報発信の場合

子どもが生まれたから利用できる助成制度を調べておこう

- ・ 育児休業給付金

雇用保険の被保険者期間が原則12か月以上ある者が、1歳（一定条件下で最長2歳）に満たない子を養育するために育児休業を取得した場合において、休業開始時賃金額を基礎として算定された額（休業開始から180日までは67%、181日以降は50%）が2か月ごとに支給される給付金

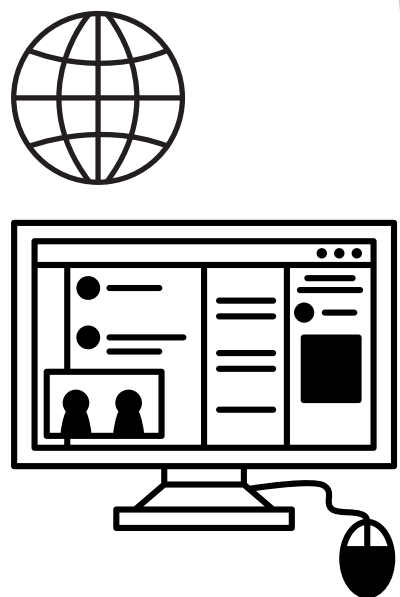
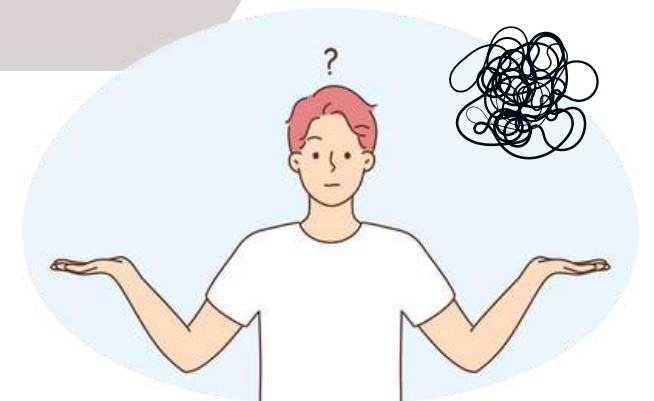
- ・ 産前産後保険料免除

国民年金の被保険者が出産した場合において、当該出産にかかる産前産後機関について、所定の届出が行われたときは、当該機関に係る保険料を徴収しないものとし、当該免除期間は年金額の算定上、納付済期間として取り扱う制度

- ・ 子育て世帯定住促進支援金

当該市町村に転入又は転居し、かつ当該市町村内において住宅を取得又は賃借し継続して居住する意思を認められる子育て世帯に対し、人口減少対策及び地域定住の促進を図ることを目的として、予算の範囲内において、支援金を交付する制度

制度の種類も多く、内容も複雑で自分が何を利用できるのか分かりづらい・・・



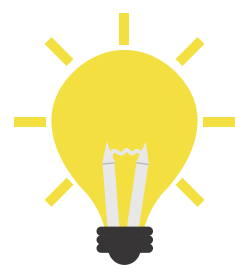
プッシュ通知の場合

子どもが生まれたから利用できる助成制度を調べておこう

あなたが利用できる子育て支援の助成制度情報を通知でお知らせします。
オンラインで申請できるものは、タップして申請画面に進み申請をお願いします。
将来お子さんが小学校に入学される時はこんな子育て支援制度を利用できます。

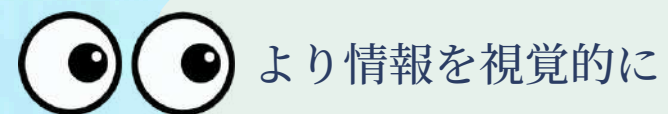


利用できる制度が通知で来るから安心して子育てができる
今後の予定も教えてくれるから将来設計もしやすいな



将来の予定が分かるからの子育ての不安を軽くなる！
「知らなかった」の申請忘れを無くなる！



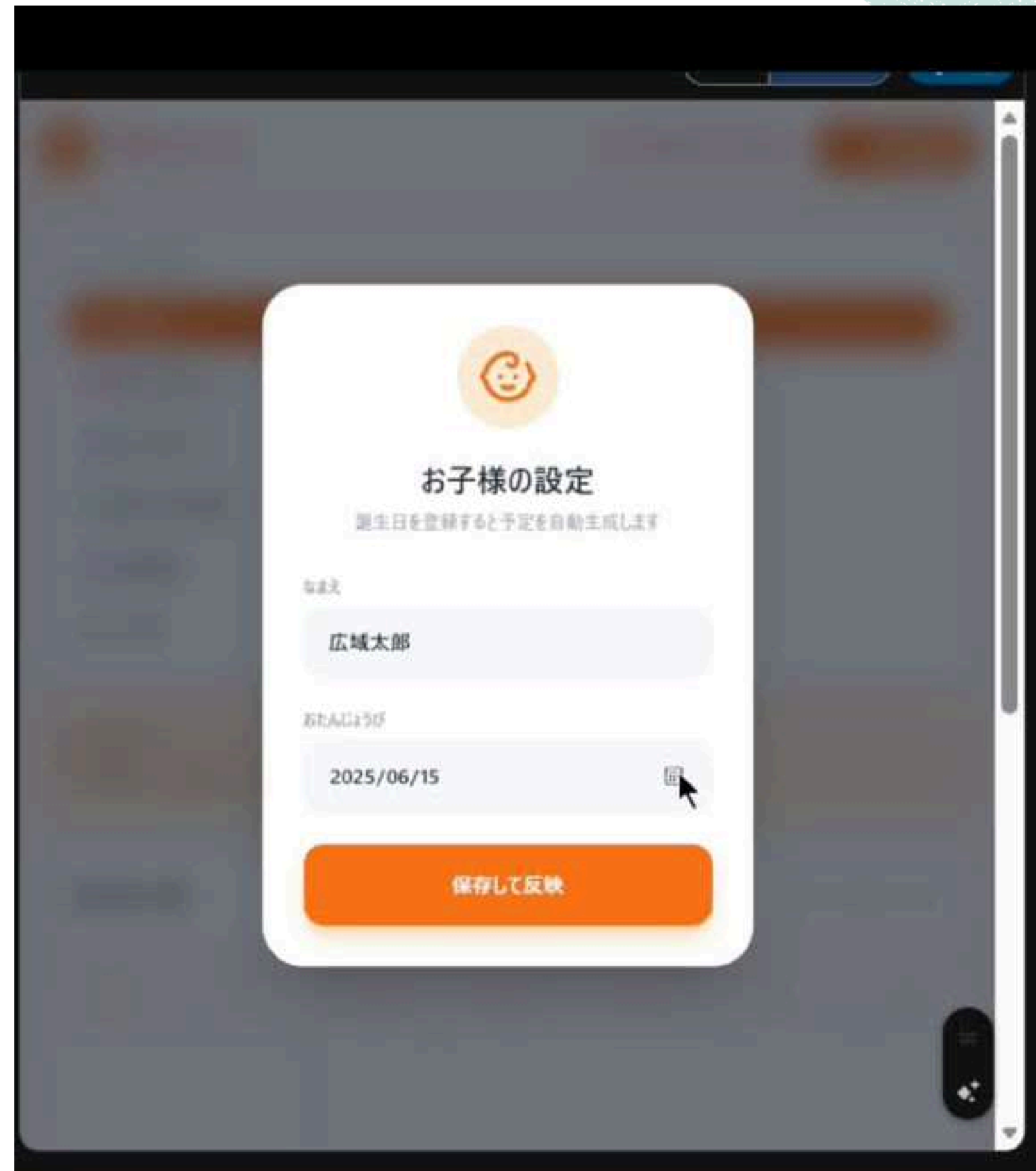


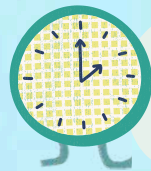
子育てカレンダー

子どもの基本情報を入力すれば、健診・予防接種や助成金、手当、給付金、保育・教育関係の申し込み子育て関連イベント等を自動でスケジュール追加。申請忘れを防ぎ、イベント等の周知にも繋がる。

イメージ映像→

Google Gemini AIを利用し作成したもの
こおりやま広域圏の連携や取り組みが可視化され、「こんなにやってるんだ」が伝わる、イベントでは市町村ごとに点在していた情報が集約され「今週どこで何があるか」が分かり、利用者は予定調整がしやすい。
ひとことで言うと、情報を集めるだけではなく「制度が利用される」「イベントに参加される」**仕組みをつくる施策**





限りある時間を有効に

子育てマップ

福島県の子育て支援施設が文章で掲載されているサイトは複数ありますが、マップ上に一目で分かる形で作成することで利用者が位置を視覚で把握でき、選択肢を直感的に理解しやすくなります。

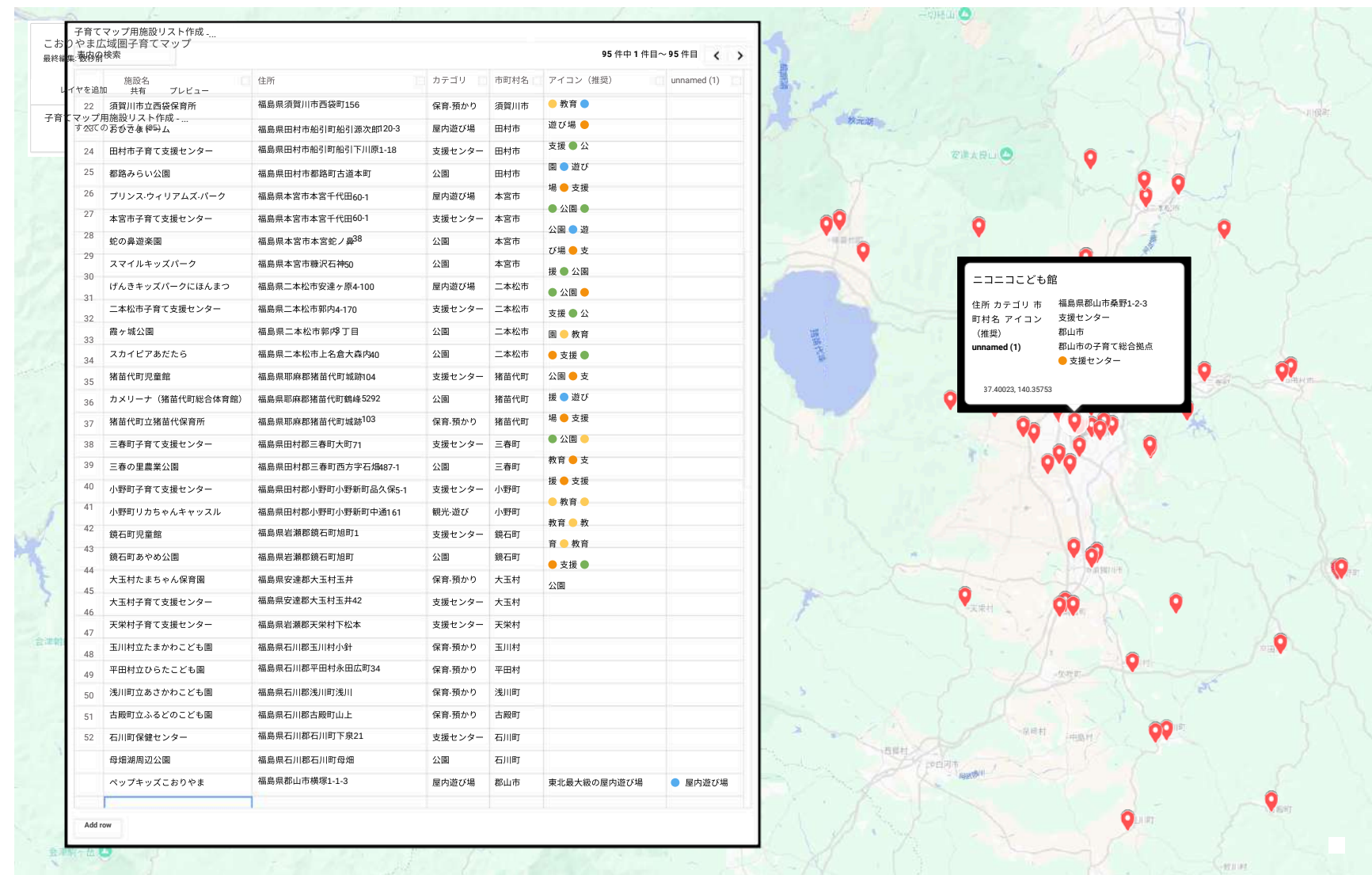
掲載する情報

- ✿ 該当施設をタップすれば空き状況が分かる
- ✿ 写真を掲載し施設内部のイメージを視覚化
- ✿ マップ上からオンラインで施設利用申請
- ✿ 施設の混み具合を常時表示

IMPORTANT!



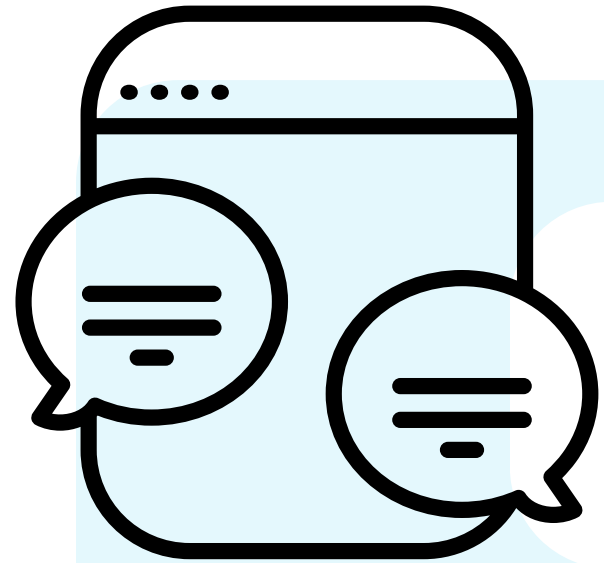
こおりやま広域圏子育てマップ



googlemap ジェミニ作成リストを取り込みマップにスポットピンを作成

4

提案内容②



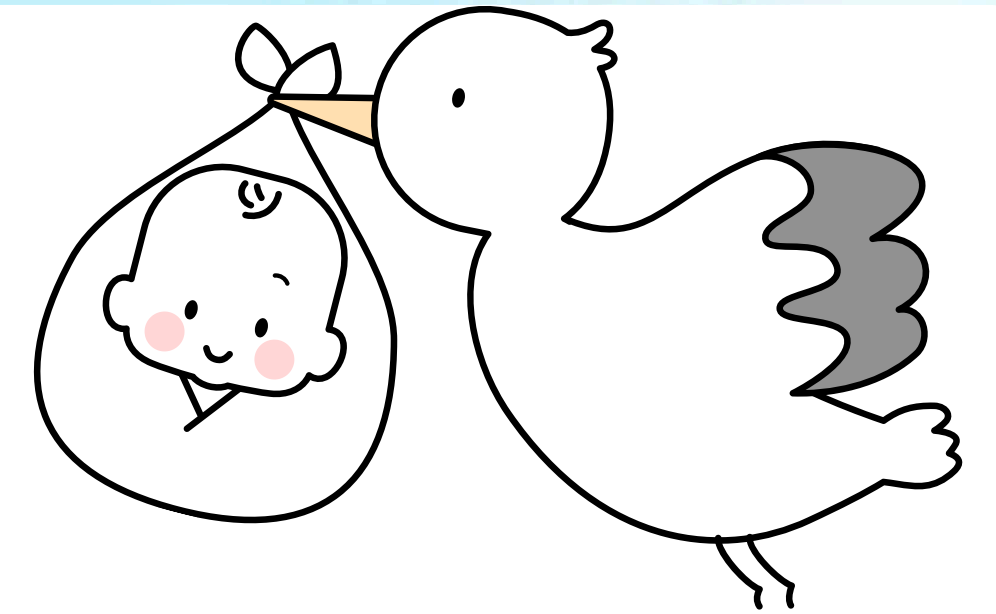
24時間オンライン相談システム

子育ての不安や悩みをオンラインで**24時間相談可能！**
AIでの自動返信ではなく、専門的な知識を持った人材の
支援によって利用者に寄り添った回答が期待できる！



利用者の対象は？

妊婦をふくむ、子育て世代の保護者すべてが対象

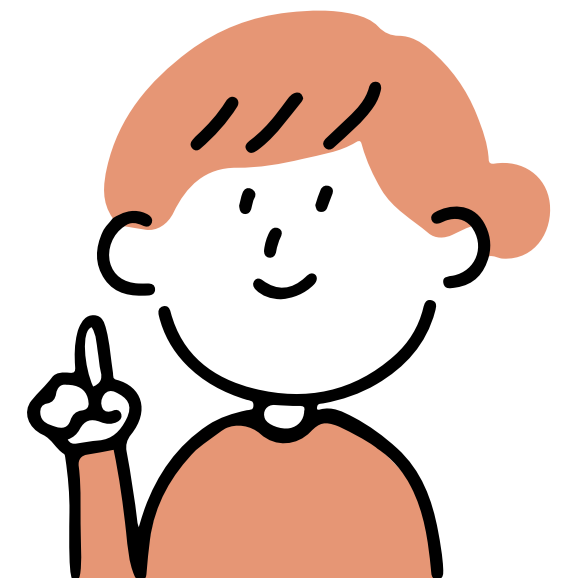


相談員の人員確保は？

産休・育休などで休業中の医師・看護師・保健師などが対応する
システムに回答者として登録することで利用者からの相談に対応
することができる

相談内容は？

産前産後の不安から子育ての悩みまで幅広い相談が可能



【効果①】 情報を発信する側（行政）

- ① 時間外に対応する必要がなく、事務負担の軽減が期待できる
- ② 専門的回答が必要な場合の負担軽減
- ③ こおりやま広域圏で相談員の配置をするため、市町村単独で配置するより費用面の負担が少ない



【効果②】 情報を受け取る側（住民）

- ① 困ったときにいつでも相談ができる
- ② 困りごとを相談する人がいない、少ないを解消できる
- ③ 専門的な知識を持った相談員からの回答のため安心感がある
- ④ 自動返信ではない回答のため、利用者に寄り添った返信が可能になる



相談例

自動返信（AI）の場合

離乳食を食べてくれないのですがどうしたらいいですか？



まず知っておいてほしいこと

離乳食を食べない時期はよくあることです

味や食感に慣れていない、気分が乗らない、眠い・お腹が空きすぎているなど、理由はさまざまです。

母乳・ミルクが飲めていれば、すぐに問題になることは少ないです（月齢にもよりますが）。

具体的に試せること

① 月齢に合った固さ・形が見直す ② 食べる「時間」と「環境」を整える

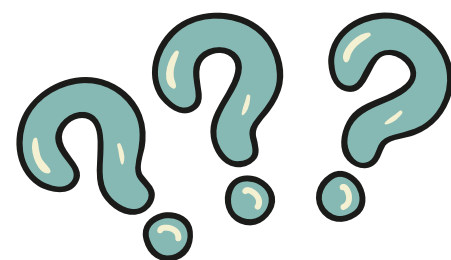
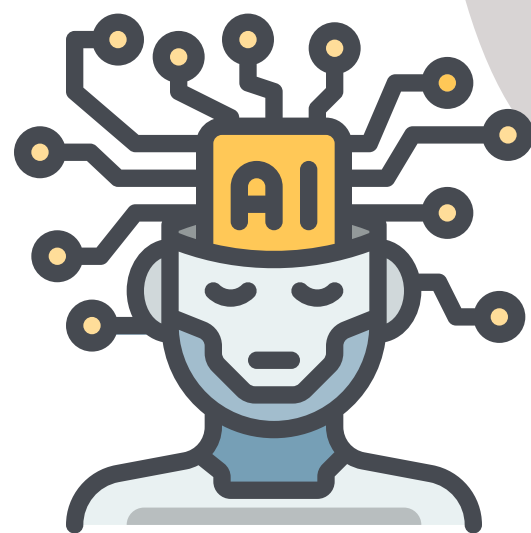
③ 味に変化をつける ④ 食べさせ方を変える

⑤ 思いきって休む

以下が当てはまる場合は、小児科や保健師さんに相談してください。

体重が増えていない／減っている ミルク・母乳も飲まない

むせやすく、飲み込みが極端に苦手そう



質問には的確に答えてくれているけれど、
「寄り添う」という面では足りない・・・

相談員返信の場合

つわりがひどく、気持ちが参っています…



それは本当につらいですね…。毎日終わりが見えない感じで、
気持ちが参ってしまうのも無理はありません。まずはここまでよく耐えてこられましたね。
少しでも楽になる可能性があることと、受診の目安をお伝えします。

今すぐ試せそうな対処法

※すでに試していたら読み飛ばしてくださいね

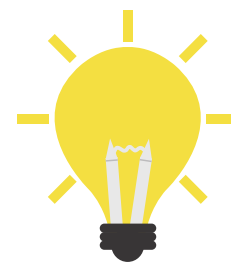
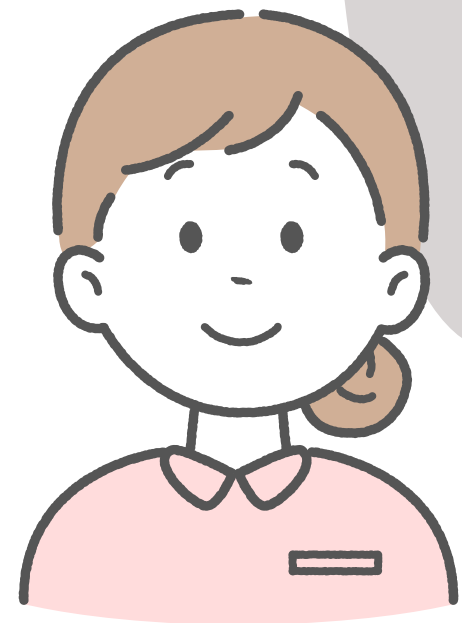
- ① 食事・飲み物
- ② におい・刺激を減らす
- ③ 体と気持ち

「何もできない自分」を責めないでください。今は赤ちゃんを守るために休む時期です。

「つわりくらいで…」と思わなくて大丈夫です。

つわりのつらさは、経験した人でないと分かりにくいです。

ここでは遠慮なく弱音を吐いてください。あなたはちゃんと頑張っています。



的確なアドバイスに加えて、利用者に「寄り添った」言葉で
安心感のある回答が可能になる！

05 終わりに

活用可能な制度一覧

分類	制度を活用できる取組内容	活用可能な制度
こおりやま広域圏 連携情報発信	<ul style="list-style-type: none">・広域連携による情報基盤整備・プッシュ通知による情報提供・相談発生前の支援強化・業務負担の軽減	新しい地方経済・生活環境 創生交付金
24時間オンライン 相談システム	<ul style="list-style-type: none">・24時間相談の全体設計・助産師等専門職との連携・当番制／オンコール体制・緊急時対応フローの整理 <div>体制整備</div>	重層的支援体制整備事業 交付金
	<ul style="list-style-type: none">・不特定多数を対象とした24時間一次相談対応・助産師等専門職への業務委託・相談記録および翌日引き継ぎ <div>運用</div>	子ども・子育て支援交付金 (利用者支援事業)



①新しい地方経済・生活環境創生交付金 (デジタル実装型：TYPE1)

■ 目的

デジタル技術を使って地域課題を解決し、住民の利便性や地域の魅力を高める。
特に「すでに他地域で成功しているモデル」を使い、迅速に成果を出すことを重視。

■ 対象事業

デジタル実装型 TYPE1 の対象事業は、「他地域で既に成功しているデジタルサービス・モデルを、そのまま導入して横展開する取組」

■ 負担割合

- ・ 上限額は設定なし
- ・ 補助率は1/2（条件により2/3）
- ・ 実績ベースでは1,000万～1億円程度が多い



②重層的支援体制整備事業補助金

■ 目的

高齢・障害・子ども・生活困窮など、制度の“縦割り”を超えて、複合的な課題に対応できる体制を市町村が整えるための支援。

■ 対象事業

- ・ 相談支援
- ・ 参加支援事業
- ・ 地域づくり事業

■ 負担割合

実施事業により異なる。



③子ども・子育て支援交付金（利用者支援事業）

■目的

子育て中の家庭が、必要な支援やサービスにつながれるように、市町村が行う“相談支援”に対して国が交付する。

■対象事業

・幼児教育・保育・一時預かり事業・利用者支援事業・延長保育事業・地域子育て支援事業

■負担割合

子ども・子育て支援交付金（利用者支援事業）の補助金額は、全国一律の定額ではなく、市町村の実施内容や体制によって変わる。

ご清聴ありがとうございました

Thank you

